

文部科学省補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

2020年度 連携型共同研究 成果報告書

研究課題名	社会的公正に基づくダイバーシティ教育プログラムの構築
研究代表者	佐々木 洋子（大阪市立大学 大学教育研究センター 特任助教）
共同研究者	西倉 実季（和歌山大学 教育学部 准教授） 山口 真紀（神戸学院大学 全学教育推進機構 講師）
研究成果	<p>現代社会においてダイバーシティ（多様性）への理解と配慮の重要性が高まるにつれ、高等教育においても、多様性に配慮できる／自分自身の問題として多様性について考察できる人材の育成が課題となっている。先行研究からは、「ダイバーシティ」とは、性別、障害、セクシュアリティ、エスニシティ、宗教……といった個別の属性の集合として捉えられるのではなく、個人においても、また場面においても重なりあって現象することが明らかになっており、複合的視点をもって概念的に理解する必要がある。また、その際には、「ダイバーシティ」の概念を、多様な構成員のマネジメントとしてではなく、社会的公正の水準において捉え直すこと（Diane J. Goodman）が必要である。そこで本研究では、これまで隣接領域でありながらも個別に行なわれてきた研究・教育実践を共有し、ダイバーシティというより包括的概念を通じて発展させることを通じて、各分野における新たな論点抽出を目指すとともに、ダイバーシティへの理解を深める教育プログラムの構築を目指している。</p> <p>本研究の特色は、研究目的に鑑み、メンバーおよび研究協力者として多様な分野・関心の研究者・実践家が関与していること、さらに、教員による教育方法の検討のみならず、学習者である学生の参加と協力により、教育効果の検討を行うことである。</p> <p>2020年度（9月末まで）は、研究計画に基づき、①本テーマに係る基礎的文献・映像資料のデータベース化、および参考となる教育実践等を共有・検討しつつ、②研究協力者による個別の実践共有および検証のための研究会と関連授業を計2回にわたり開催した。今後も、本助成への採択を機に組織した「社会的公正に基づくダイバーシティ教育研究会」が中心となり継続的に取り組んでいく予定である。</p>